



やつかいろ きぼう

八束色の希望

松江市立義務教育学校
八束学園
令和8年 2月20日
学園長 後藤康太郎

学園教育目標：ふるさとを愛し、人間性豊かでたくましい学園生の育成

2月は「如月（きさらぎ）」といいますが、「衣更着（きさらぎ）」とも書き、「衣類をさらに重ね着するほど寒い」頃のことを言うそうです。

ところが今年の立春は春を思わせる陽気になり、その後数日は暖かい日が続きました。このまま暖くなるのか？と思ったとたん、「衣更着」の言葉通り、8日には大寒波がおそい、近年にない大雪となり、本校も2日間に及ぶ臨時休業を余儀なくされました。校地内は雪による倒木等もあり、再度安全点検を行ったところですが、改めてさらに被害の大きい東北や北海道の雪害を心配すると同時に、いっそう春を待ち遠しく感じた2月でした。



9日の校舎の様子です。玄関の上には大きなつららができました。

そんな中で、学園では2月25日に前期ブロックの「引継式」、3月7日には「卒業式」、そして3月12日には中期ブロックの「立志式」を、それぞれ予定しています。

いずれもそれぞれの節目で、これまでの成長を喜び合うとともに、周りの人への感謝の気持ちをもったり、今後の自らの生き方を考えたりする機会としています。

特に卒業式は八束学園からの卒業というだけでなく、9年間の義務教育の終わりでもあり、これまでの長い学びを振り返り、新たな進路への巣立ちを意味する大切な節目です。

該当する学年の保護者の皆様には、別途ご案内をしておりますので、是非ご参観くださいますよう、お願い申し上げます。

新学園生会スローガン

「興進（こうしん）」～ハッピーライフはここにある～

1月22日（木）、8年生を中心とした新学園生会となってから最初の学園生総会を行いました。学園生総会では、各学級から活発な意見や質問が出されました。また、新しいスローガン「興進（こうしん）」～ハッピーライフはここにある～が発表されました。

- ・意欲や興味をもって、目標に向かって前に進んでいこう。
 - ・達成感や喜びを感じて、生活していこう。
- という想いが込められています。

今年も企画委員会、各事業委員会ともに様々な企画を検討しているようです。執行部の皆さんだけでなく、学園全体で「興味をもって前進できる」学園になるよう、頑張ってもらいたいと願います。



各学力調査を終えて

I たつじんテストの分析から

八東学園では今年度、全国学力調査や市の学力調査に加えて、島根県が実施する3年生対象の「たつじんテスト」に参加しました。

この「たつじんテスト」とは、子どもの学習の「つまずき」の原因を特定するためのテストです。簡単に言えば、「どこが分からないか」ではなく「なぜ分からないか」を診断するためのもので、正解・不正解よりも、なぜその答えになったのかという課程を分析し、指導に役立てることを目的としています。

例えば本校の3年生では次のような種類の問題で間違いが多くありました。（これは「学園だより」用に用意した例題で、実際はもう少し鮮明で分かりやすい図です。）



これらには共通したつまずきのパターンがあると言われています。本校では以下のようなケースが該当するのではないかと整理しました。（ちなみに正答は①です）

元の図の規則性を想像する、そして隠れている部分の図を想像する、その上で想像した図と選択肢を照合する、という3つの作業を同時に行わなくてはならず、誤答が多くなる。「図形を部分に注目して比べる」力が発達途中であり「図形を分析的にみる経験」も少ないことが要因ではないか。

そこで今後の4年生の授業で以下のような工夫を検討しています。

4年生の算数の図形の学習で、紙面上に描かれた図や図形を見て、実際にブロックや紙を使って形を作ったり、分解したりする活動をしっかり行う。

（例）台形は2つの直角三角形と一つの長方形または正方形で構成されていることを気づかせたい。そのために

- ①図形を紙などで分解し、元の図形がどのような形で構成されているか考える。
- ②図形に補助線を引かせ、その図形の構成を考える。

授業を通じ①や②のような、複雑な図形を全体で捉えたり、あるいは部分ごとに捉えたりする活動（経験）を増やすことで、学習基盤のつまずきの解消につなげる。

もちろんこれまでも、学園生の様子や教員の経験などから、つまずきを捉えて指導の工夫してきましたが、より客観的につまずきの傾向や要因を分析して、学習方法や学習内容を工夫したり、充実したりすることができます。

説明は一例ですが、この「たつじんテスト」は、各教科の各単元の導入で活用したり、教材の一部として活用したりすることもできるかもしれません。何が原因でつまずいているのかを理解し、授業改善をしていくことが大きなねらいです。

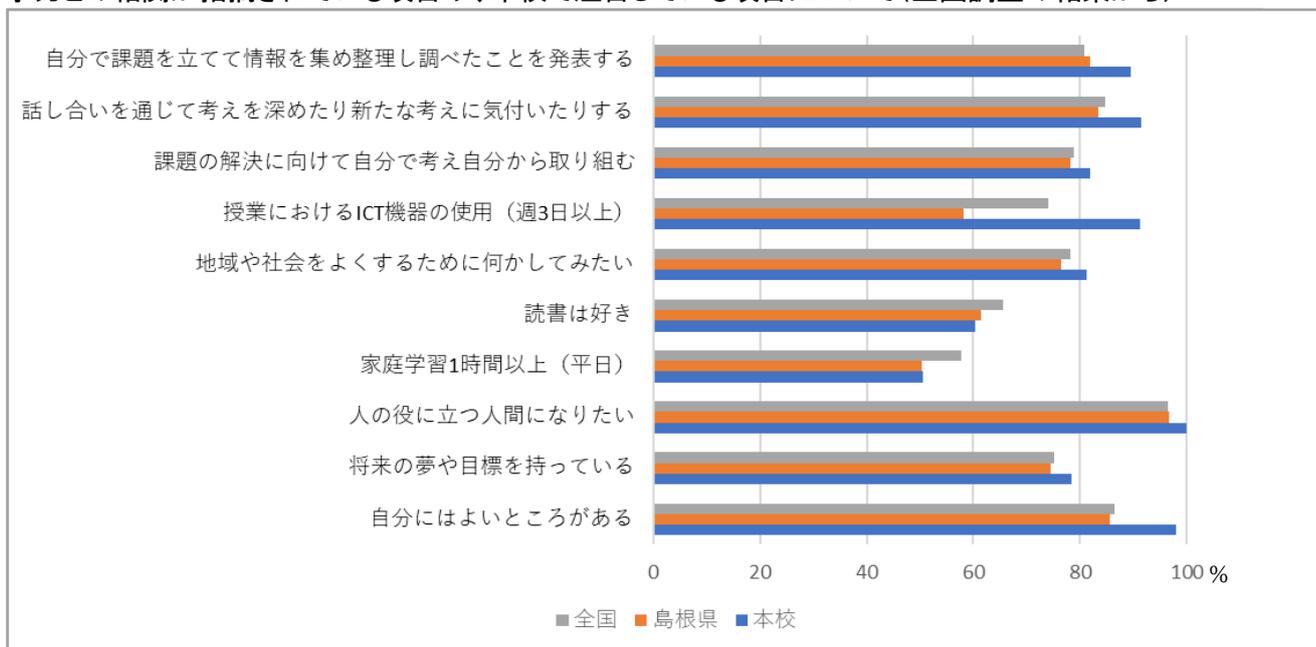
子どもたちの具体的なつまずきを把握するひとつのツールとして、この「たつじんテスト」の結果を活用していきたいと考えているところです。

Ⅱ 全国調査の生活アンケートから

4月に6年生と9年生を対象に全国学力調査が行われました。この調査では、各教科の調査に併せ、生活行動・学習活動調査が行われます。この調査は、普段の生活や学習の様子が、学力調査の結果にどう関係しているか見るためのもので、これまでの調査からいくらかの項目について学力との相関が指摘されています。

本校でも調査に参加し、その学園生の状況について、全国平均や県平均と比較して紹介します。（グラフは前・後期のデータを本校で独自に集計したものです）

学力との相関が指摘されている項目や、本校で注目している項目について(全国調査の結果から)



3段の棒グラフの上段が全国、中段が鳥根県、下段が本校の数値（%）です。

ご覧のように全国や鳥根県の数値に比べ、優位である項目が多く、特に学習活動では

- ・「自分で課題を立てて情報を集め整理し調べたことを発表する」
- ・「話し合いを通じて考えを深めたり新たな考えに気付いたりする」
- ・「授業におけるICT機器の使用」

といった項目の比率が高いことが分かります。どこの学校でも進めている取り組みではありませんが、学習の中で、表現や対話の活動を多く取り入れていることや、ICT機器の活用をより進めていることについて、他校に比べ多くの学園生が充実感を持っていることが分かりました。

また、生活についても

- ・「将来の夢や目標を持っている」
- ・「自分にはよいところがある」

などの項目は比率が高いことから、自己肯定感が高く、夢や目標を持っている学園生が多いといううれしい結果でした。八束の子どもたちが家庭や地域で大事に育てられていると感じています。

一方で、学習活動に関わる以下の項目は全国平均を下回りました。

- ・「家庭学習1時間以上」
- ・「読書は好き」

家庭学習を一日一時間以上するという学園生は半数程度、読書が好きと答えた学園生は6割程度でした。家庭学習の充実が基礎学力の定着に重要な時間でもあります。また読書は読解力の向上にもつながり学習の基盤となるものです。家庭学習や読書活動については学園でも引き続き改善策を検討したいと考えています。

全国や鳥根県の平均値との比較で紹介しましたが、比率の大小にかかわらず、グラフに挙げた項目はいずれも学園生にとって大切なものです。ご家庭でも改めて子どもたちの生活や学習を振り返り、次年度につなげる機会となればと思います。

2月の学園生の様子です。



↑5年生は福祉学習の一環で車いすの体験をしました。介護をしながら車いすを押ししたり、自分で操作したりしました。予想以上に難しく、いろいろな学びがあったのではないのでしょうか。



↑わかば・ひまわり・あおば学級合同で、前庭で栽培したサツマイモを使って焼きいもをしました。炭火で焼く焼きいもは絶品だったようですよ。



↑3年生は年間を通じて学習した八東の特産品である牡丹の調べ学習についての発表会を由志園で行いました。地域の方や保育園の皆さんも招いてしっかり行いました。みんなかなり緊張したようです。



↑7年生の家庭科は調理実習です。具だくさんの味噌汁作りとリンゴの皮むきにも挑戦しました。初めてリンゴの皮むきをした学園生も多く、ちょっとハラハラしながら写真を撮りました。



↑前期課程(1~6年生)はなわとび集会を行いました。この日のために練習した技や、8の字跳びに挑戦しました。来年はもっと上手に跳べるといいですね。



↑2月は雪もたくさん降りました。せっかくなので1年生は生活科で雪遊びをしました。大雪は困りましたが、1年に何回かは雪遊びができる日があってもいいと思いました。